

民生常任委員会所管事務調査報告書

西宮市議会議長 山田 ますと 様

令和5年12月25日
(2023年)

民生常任委員会

委員長 一色 風子

副委員長 牧 みゆき

委員 ありめ こうへい

〃 河崎 はじめ

〃 浜口 ひとし

〃 松山 かつのり

〃 八木 米太郎

欠席委員 佐野 ひろみ
(亀岡市はウェブ会議システムを使用して視察を視聴)

随 行 赤尾 圭介

民生常任委員会管外視察について、次のとおり報告いたします。

1 調査先及び調査事項

大和市

- ・大和市文化創造拠点シリウスについて

武蔵野市

- ・武蔵野プレイスについて

国立国会図書館 国際子ども図書館

- ・国際子ども図書館について

安城市

- ・中心市街地拠点施設アンフォーレ（安城市図書情報館）について

亀岡市

- ・オーガニックビレッジ宣言にかかる取組について

2 調査期間

令和5年10月23日(月)～令和5年10月25日(水) 2泊3日

3 調査先対応者

大和市文化創造拠点シリウス

指定管理者やまとみらい統括責任者

片山 鑛 藏

やまとみらい事務局 総務

神山 百合子

やまとみらい事務局 総務

青山 美 紀

武蔵野プレイス

公益財団法人武蔵野文化生涯学習事業団

生涯学習事業部長（兼武蔵野プレイス館長）

原 島 正 臣

国立国会図書館 国際子ども図書館

企画協力課長

堀 内 夏 紀

企画協力課課長補佐

白 井 京

安城市

議会事務局議事課庶務係

都 築 甚 矢

市民生活部アンフォーレ課長兼図書情報館長

籠 瀬 博 敬

市民生活部アンフォーレ課

課長補佐（まちなか連携担当）

谷 川 敬 芳

亀岡市

議会事務局長

議会事務局副課長兼総務係長事務取扱

産業観光部長

亀岡市立学校給食センター所長

井上 幸子

野澤 孝子

松本 英樹

岩崎 盛雄

4 用務経過等

<大和市> 10月23日(月)

午後2時頃、大和市文化創造拠点シリウスに到着し、統括責任者の片山様より歓迎のあいさつをいただく。

その後、調査事項について説明を受け、館内を現地視察後、質疑、意見交換を行った。

(午後4時頃視察終了)

<武蔵野市> 10月24日(火)

午前10時頃、武蔵野プレイスに到着し、原島館長より歓迎のあいさつをいただく。

その後、調査事項について説明を受け、館内を現地視察後、事前に送付した質問項目に対する回答をいただき、質疑、意見交換を行った。

(午前11時30分頃視察終了)

<国際子ども図書館> 10月24日(火)

午後2時頃、国際子ども図書館に到着し、堀内企画協力課長より歓迎のあいさつをいただく。

その後、調査事項について説明を受け、館内を現地視察後、事前に送付した質問項目に対する回答をいただき、質疑、意見交換を行った。

(午後3時30分頃視察終了)

<安城市> 10月25日(水)

午前10時頃、アンフォーレ(安城市図書情報館)に到着し、籠瀬館長より歓迎のあいさつをいただく。

その後、調査事項について説明を受けながら館内を現地視察し、質疑、意見交換を行った。

(午前11時30分頃視察終了)

<亀岡市> 10月25日(水)

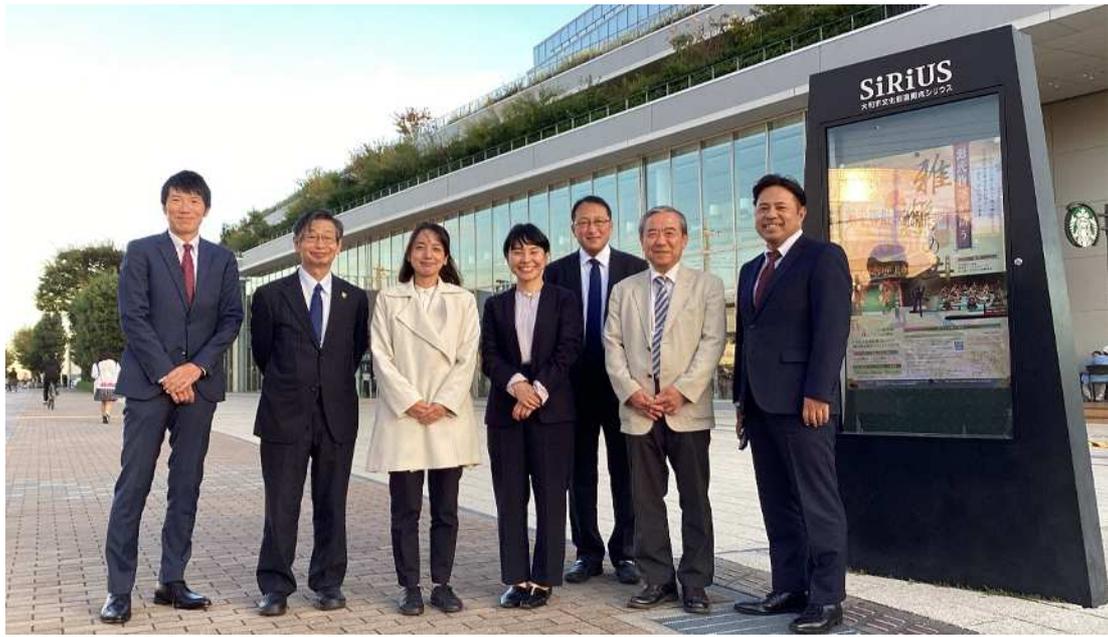
午後2時40分頃、亀岡市議会に到着し、議会事務局の井上局長より歓迎のあいさつをいただく。

その後、調査事項について説明を受け、事前に送付した質問項目に対する回答をいただき、質疑、意見交換を行った。

(午後4時30分頃視察終了)

5 視察風景

■大和市



■武蔵野市



■ 国際子ども図書館



■ 安城市





■ 亀岡市



委員会行政視察報告書

委員氏名 一色風子

調査の期間	令和5年(2023年)10月23日(月)～10月25日(水)
調査先 及び 調査事項	大和市 ・大和市文化創造拠点シリウスについて 武蔵野市 ・武蔵野プレイスについて 国際子ども図書館 ・国際子ども図書館について 安城市 ・中心市街地拠点施設アンフォーレ(安城市図書情報館)について 亀岡市 ・オーガニックビレッジ宣言にかかる取組について

『大和市文化総合拠点シリウス』

【概要】

大和市駅から歩いて3分の立地にある複合施設「文化創造拠点シリウス」

図書館、芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内こども広場の4つの機能を中心と

した文化複合施設で2016年開館。書庫の容量閉架書庫は38万冊。

午前9時から午後9時まで(日祝午後8時)図書館は開館

指定管理者やまのみらいが管理運営をしており専門性を活かすために7つの複数の共

同事業体の運営となっている。代表企業は図書館流通センター(TRC)となっており、

市との協力体制は2部3課関わっており情報共有をしながら業務改善会議を頻繁に行

っている。

市から全館図書館であることを求められたため、ICタグをつけることで館内どこに持

ち歩くことも貸し出しもできるようになっている。無料、有料の学習スペースがあり
利用者に分けている。

【感想】

複合施設の先進都市として多くの視察の受け入れをされてるシリウス。来館者数は想
定の3倍を超える利用となっているとのことで、居心地の良い場所で回流することも
考えらえた施設の配置になっているように感じた。

運営はJV(共同企業体のこと。複数の異なる企業等が共同で事業を行う組織のこと。)
での指定管理者制度を採用しており、それぞれの業者の強みを活かした運営をしてい
るように見える。一時期流行ったTSUTAYA図書館とはまた趣が違っているように感じた。
確かに先進市だけあり個人的に和歌山県で見た海南市の複合型図書館、海南nobinos
(ここもJVでの運営)とも似ている雰囲気だった。

個人的にはYAコーナーを拝見すると静かな雰囲気と活気があるというよりは個々に
本を読んでおられて若者が集う場所というイメージとは違っていた。

説明補佐の方に状況をお聴きするとやはりここは来てほしい人の層がなかなか集客で
きていない課題があるとのことだった。

自衛隊の基地に近いこともあり施設建設での配慮が必要だったこともお聞きするこ
とができた。

テーマを設けて施設融合できるようになっているということ、今後連携していきたい
取り組み事例などの話を指定管理者の代表となる図書館流通センターの館長がかなり
の時間を割いて座学と館内案内をしていただいた。

大和市全体として他の施設でも子育て支援の一環として通常の一時預かり事業以外に
も行っていることもあり、子育て支援として一時預かり施設も併設している

【提言】

目的を持った図書館を含めた複合施設のために作られた共同事業体の強みを生かした運営になっている。1つの担当が全てを賄うのではなく、得意分野がうまく施設運営を構成することができる部分は今後の図書館運営に役に立つと考える。ぜひ、そのような手法を今後の図書館運営の中で検討いただきたい。

市全体の政策として非定型一時預かり以外の子育て支援として一時預かりをスタートすることで図書館を利用する目的で好きな時に一時預かりを利用できるようにすること。

『武蔵野プレイスについて』

【概要】

武蔵境駅前に立地する複合施設。芸術文化、スポーツ、生涯学習分野の公益財団法人武蔵野文化生涯学習事業団が管理運営する施設として 2011 年開館。

図書館、生涯学習支援、青少年活動支援、市民活動支援の 4 つの機能が融合された施設。図書や活動を通して人とひとが出会いそれぞれが持っている情報（知識や経験）を共有・交換しながら知的な創造や交流を生み出し地域社会の活性化を深められるような活動支援型の公共施設となっている。

開館時間は 9 時半から 22 時。

【感想】

非常に居心地の良い施設となっていた。採光の取り方なども工夫されており館内は全体的に明るすぎず、本にも優しい照明となっているように感じた。

市民活動支援機能部分にはメールボックスロッカーが設置されており豊中市の市民活

動の中間支援をしている場所でも同じものを拝見したことがあったが、登録した後の活動拠点にするためのきっかけづくりになる工夫の一つだと思う。オープンスペースでのミーティングができるスペースなどもあり他の団体との交流が自然にできるように思った。

青少年活動支援機能になるスペースは地下2階にあり、ダンスの練習などができるスタジオ、バンド練習ができるスタジオ、簡単な調理ができるクラフトスタジオ、体を動かすことができるオープンスタジオ、勉強や読書、おしゃべり、飲食ができるオープンスペースのラウンジが青少年のみ利用できるようになっている。利用料も大人料金の10分の1の設定になっており、音楽スタジオは平日の日中など青少年の利用が少ない時間帯は大人にも開放している。青少年だけしか入れないという居場所的役割が図書館内にあるというのは、不登校などで学校以外の場所で過ごしたい子ども若者にとっては見守ることをしてくれる図書館は非常に良い形になっているように感じた。ここも、児童書コーナーが他と分けられており音への配慮がされていました。カフェスペースは全国展開しているチェーン店が入っているわけではなく武蔵野プレイスができる際にオープンしたお店になっているのはとても印象が良かった。

【提言】

図書館内に市民活動支援拠点を置くことで図書館、生涯学習などとの連携を深める、そして人が交流できる場としていくこと。青少年の居場所機能を図書館に充実させていくことも検討すること。カフェスペースは全国展開されている飲食チェーンに依存せず市内のコーヒーゲートなどとの連携など市内事業所を優先できるようにすること。

『国際子ども図書館について』

【概要】

「子どもの本は世界をつなぎ未来を拓く！」という理念のもと国立国会図書館国際子ども図書館が設立された。児童書専門図書館として国内外の児童書及び関連資料を収集・保存・提供するとともに児童書に関する専門的な情報を広く発信することにより、児童書や子どもの読書に関わる多様な活動を支援すること、子どもと本のふれあいの場として国際図書館だけがでなくインターネットや身近な図書館を通して全ての子どもが本とふれあい図書館や読書に親しむきっかけを提供すること、子ども本のミュージアムとして上野に立地する歴史的建造物というと特色やインターネットで提供する電子展示会をいかし総合的に文化に親しむ場として図書館の姿を表現。

東京都の歴史的建造物に選定されているレンガ棟には主に小学生以下の子どもたちのための児童書を集めている「子どものへや」世界の国や地域の地理、歴史、文化等を紹介した児童書、外国語の絵本や読み物がある「世界を知るへや」おはなし会やわらべうたの会を行う「おはなしのへや」明治から現代までの日本の子どもの本の歩みをたどる「児童書ギャラリー」中高生の調べものに役立つ資料や体験プログラムを実施している「調べものの部屋」子どもの本に関する展示会を開催する「本のミュージアム」音楽会等のイベントや国際子ども図書館を紹介する展示を行う「ホール」休憩、飲、授乳スペースもある新しく建設されたアーチ棟には児童書に関する調査研究のための資料室「児童書研究資料室」がある。

【感想】

施設、設備ともに国会図書館の国際子ども図書館というだけあるものだった。本は全ては開書されているわけではなく本に出会う工夫がなされているように感じた。

昔の本から海外の本まで手に取れるようになってきているのは絵本の歴史を身近に感じる
ことができた。

【提言】

学校図書館のセット貸し出しという制度を市内の学校に周知し市立図書館にはない本
と出会える機会を市内の子どもたちに設けること。

調べ学習体験（レファレンス体験）が全ての学校でできるような仕組みを検討するこ
と。

そもそもの図書館のあり方を国際子ども図書館の役割に習い原則とすること。

『中心市街地拠点施設アンフォーレ（安城市図書情報館）について』

【概要】

JR 安城駅から徒歩 5 分の立地にある複合施設。

図書館、ホール、商業施設が併設されている施設として 2017 年に開館。図書館部分
は市直営での運営。

図書情報館は 9 時から 20 時の開館。

市民の交流を目的にした広場やエントランスは開放的でイベントなどで市内外から活
用されている。また、エントランスには市民投稿コンテンツとして「ポストフォーレ」

という大型マルチビジョンを利用した市民主催イベントなどの PR ができるような

サポートもある。図書館は 3 フロアに分かれており「子どものフロア」「暮らしのフロ
ア」「学問と芸術のフロア」と親子での利用や静かに読書するなど目的に応じて使い分

けができるようになっている。予約本受取り機、読書通帳、充実した電子情報機器、

用途に応じた学習室がフロアごとに無料、有料スペースとしてかなりの数を確保し

ている。子育て支援をしている市内 NPO 法人の運営する子育て支援拠点が施設内に併設されている。

【感想】

安城市の図書館と学校図書館との連携ができるよう専門のコーディネータが配置されており、学校司書との連携がスムーズにいくようになっている。また、レファレンスに力を入れているということで、レファレンスの事例が見える化されているのはわかりやすく、また学校でもレファレンスの充実を図っているということで、安城市の図書館に求める役割がはっきりとしており政策として形になっていると感じた。

また車社会ということもあるが、車で行ける場所で子育て支援も充実している施設なので自ずと子どもを連れて施設利用をしたくなるようになっていると感じた。

図書館利用が楽しくなる読書通帳や電子情報へのアクセスの良さも図書館を利用したくなる工夫を感じた。

どのフロアにもオープン、クローズ、有料、無料、大小様々なミーティングスペース、学習スペースが充実しており、利用者の層を厚くするように感じた。

ICT化がかなり進んでいるように感じた（施設整備の際にも大きく予算を充てたときいている）自動貸し出し機などを市民に利用してもらえるよう普及し、図書館司書がレファレンスサービスに集中できるようにしているとのことそのような目的のための ICT の活用は必要だと感じた。

【提言】

学校との連携を強化すること。特にレファレンスに関して、また開架や書棚の配置作り方などもアドバイスできるようなアウトリーチ的な仕組みを検討いただきたい。

オープン、クローズ、有料、無料、大小様々な形のミーティングスペース、学習スペ

ースの充実を検討すること。

図書館司書が本来業務に力を入れることができるように環境整備をすること。

【管外視察のうち図書館に関する提言】

市として図書館に求める目的やビジョンを明確にした上で必要な施設整備をすること。

目的に合わせて、得意分野専門分野を分けた運営にすること。

図書館を市民の交流拠点とするのであれば、行きたくなる施設であり、滞留できるような工夫をすること。(ソファ席やWi-Fi、学習スペース、フリースペース、カフェスペース、飲食できる、おしゃべりできる、子育て支援設備など)

市民交流拠点となるような市民交流センター機能を図書館内に配置すること、また生涯学習との連携も強化すること。

『オーガニックビレッジ宣言にかかる取組について』

【概要】

京都市の西隣に位置する亀岡市は京都市内、大阪、兵庫にも近く利便性が高い。京都サンガの本拠地となるサッカースタジアムが駅前に立地し、またスタジアム内にはポルタリングウォール、保育所、Eスポーツ、コワーキングスペース、子育て支援施設などが併設されている。もともと、京都の穀倉地帯として京野菜の産地になっており京都の台所として知られている。

小規模農家が多く農業経営体としては 1487（うち法人が 30）その内耕地面積 0.5～1.0ha が 694（47%）、販売金額 50 万円未満 684（46%）、農業経営体における副業的農家の割合は 78%

有機農業に取り組んでいる経営体と作付け面積は 105（7%）7, 6ha

農業従事者は 2020 年から 2030 年の 10 年間で 47, 5%の従事者がリタイアの可能性がある、定年後農業をすることなくなるとつあり担い手不足が深刻化しつつある。

その中で、環境先進都市として 2018 年亀岡プラスチックごみゼロ宣言、2021 年亀岡市プラスチック製レジ袋提供禁止に関する条例の制定などを進める。

天然記念物のアユモドキの保全、生物多様性の維持、脱炭素・脱プラの推進とともに農業の担い手確保、農産物の高付加価値化、農業由来の環境負荷軽減という政策を掲げ亀岡市として有機農業の推進を加速化させている。

【感想】

亀岡市に初めて訪れた。想像していた以上に住宅が多く小京都と言われる盆地の地形

の中でコンパクトな街づくりが進められているように感じた。駅前には大きなスタジアムがありシンボリックに見え、マンション建設なども駅前周辺では進んで行く予定ということも聞かせていただいた。

オーガニックビレッジ宣言をした亀岡市はまだまだ取り組みは始まったばかりということだが、先進事例を取り込みながら農家への支援策、公共調達への導入、他団体との連携、独自認証制度を積極的に進めているように感じる。

スタジアム予定地であった保津川沿いの公園を今後オーガニックビレッジパークの整備として進めていくということだが、都市公園法やその中での農地を整備していくことなど法的な整理も必要になると思うが、どのように進めていくのか非常に興味深い。

学校園での有機農産物の活用に関してまずは米からスタートしていくとのことで、少しずつでも作付け面積を増やしてほしいと思う。また中学校給食はこれから始まるということ、自校調理なのかセンター方式なのかまだ決まっていないということだったが、個人的には自校での炊飯ができるような環境に整備してほしいと思った。このことも今後の亀岡市の環境配慮と食に対する考え方が明確になっていくのではないかなと思う。

【提言】

有機栽培農家などオーガニックな農業の支援を環境配慮の観点から西宮市でも進めること。

また、都市公園の枠を今後どのように超えて農地を整備するのか西宮市でも参考にし西宮市の公園でも農地を整備できるように検討すること。

委員会行政視察報告書

委員氏名 牧 みゆき

調査の期間	令和5年(2023年)10月23日(月)~10月25日(水)
調査先 及び 調査事項	大和市 ・大和市文化創造拠点シリウスについて 武蔵野市 ・武蔵野プレイスについて 国際子ども図書館 ・国際子ども図書館について 安城市 ・中心市街地拠点施設アンフォーレ(安城市図書情報館)について 亀岡市 ・オーガニックビレッジ宣言にかかる取組について

=大和市文化創造拠点シリウス=

<事業の概要と主な取り組み>

大和市 人口約24万人 面積約27k㎡

都心から40km圏内、神奈川市のほぼ中央に位置する交通の利便性が良い都市

市内には5つの図書館があり、指定管理者 やまとみらい(合同企業体)で管理運営している。

シリウス 地上6階 地下1階建て

敷地面積 9,378.19㎡ 延床面積 26,003.33㎡

大和文化芸術ホール、大和市立図書館、生涯学習センター、屋内子ども広場、放送スタジオ、市民課連絡所、イベント観光案内協会などが入っている複合施設。

利用時間(図書館) 9:00~21:00

1階 スターバックスなどのカフェ、ホールが2つ、また展示に使えるスペースがあり、2階には児童の預かりサービスなどもあり子育て中の親が利用しやすい。その他、時間制有料

の学習スペース、市民講座が開かれるスペース、貸し会議室、飲食可能の交流スペースがある。

来館者は年間約 300 万人、一階のホールは、メインホールはほぼ 100%、サブホールも 80% の稼働率があるとのことだった。

建設にあたっては街づくりの観点から構想し、シリウス横のプロムナードの活性化なども狙ったものとのこと。

<良いと思った取り組み>

- ・ IC タグ化されており、自動貸し借りができる。
- ・ 予約した本の受け取りが、スムーズにでき、且つ借主のプライバシーを守れるようにすることで本が借りやすくなっている。
- ・ 自動で本が仕分けされる様子を見られるようになっている。
- ・ 市民講座がたくさん開かれていて、その様子が講義を受けている人以外にも見えるようになっていて、より市民の知的好奇心を向上させるようなシステムになっている。
- ・ 会議室、会議スペースがガラス張りで開放的で中の様子が見られる（カーテンはできる）ことで、オープンで、安心。活気も伝わりやすいと感じた。
- ・ 一階に展示コーナーがあり、作品展やパネル掲示など市民が立ち寄りやすく様々な利用の仕方ができる。
- ・ 学習スペースが有料、時間制であることで利用者が、静かに安心して使えるようになっていた。（利用者が多かった）
- ・ 携帯電話の通話室があるのが良い
- ・ 景色をみたり外の空気を吸うなど、リフレッシュできるようバルコニーでくつろげるようになっていた。
- ・ 飲食可能スペースで利用者が自由に交流できるよう工夫がされていた。
- ・ 子ども連れの利用者が親子で楽しめるようプレイスペースや、有料で児童の一時預かりができるようになっていた。

<市への提言>

予定地が市内中心部であることから、様々な利用者が滞在、交流できるよう、また周辺施設や商店街の活性化に繋がるような街作りの一環としての視点をとりいれたい。

美術館やホールなど他の公共施設、事業と合わせることで足を運ぶ人の多様化、交流の広がりを考えたい。

= 武蔵野プレイス =

<施設、事業の概要>

武蔵野市 人口約 15 万人 面積約 11 k m²

2011年7月開館。地上4階 地下3階 床面積9809.76㎡

利用時間 9:30~22:00

運営 指定管理 公益財団法人 武蔵野文化生涯学習事業団

市内にJR3駅を有し、近隣市区の住民が利用しやすい。全国の10~15万人自治体の中で、個人貸し出し数は連続一位。

外観も内部空間も丸みを活かしたデザイン性の高いつくりとなっている。

屋上緑化、雨水利用、地下化によるエネルギー負荷軽減、コスト、CO2削減など環境への配慮がされている。

図書館機能、生涯学習支援機能、青少年活動支援機能、市民活動支援機能を併せ持つ、活動支援型の公共施設を目指している。支援内容としては、情報アクセス支援、課題学習支援、地域社会活動支援を行っている。

<良いと思った取り組み>

- ・環境に配慮し、省エネ化を図った仕組み作り、また身体にやさしい輻射熱冷暖房にしていること。

- ・館内の空間が勾配天井と斜めの壁、らせん状の階段などデザイン性が高く、創造性がありながら、自然光が入り柔らかい照明で落ち着いた空間となっており、非日常的でありながら長く愛され、ゆっくりと滞在できるような空間作り。

- ・各フロアごとにテーマがあり、多様な利用者の活動が自然と区分され、それぞれが自分の活動に集中できるよう工夫されている。

- ・青年利用が22時までできるなど、青年活動の支援、居場所作りに貢献している。

- ・各フロアの音の漏れ、食事フロアからの匂いの漏れがないような工夫されている。

- ・ソファや椅子、照明なども含め空間に、まとまりを感じられる。

- ・青少年利用フロアにボルダリングやサウンドスタジオ、パフォーマンススタジオなど、身体を動かす場所があること。

- ・貸し会議室とは別で、市民活動カウンターやワークスペースがあり、利用者が本を読む人の邪魔にならず気軽に会議が持ちやすくなっている。

- ・市民活動の活動ファイルが見られるようになっており、図書館での市民活動がみえる化されている。

<市への提言>

若者の居場所づくりの観点を取り入れるとともに、創造的な活動の支援ができるような図書館を目指すのは良いと思う。

図書館は照明、暖房など消費エネルギーの高い施設であるので、省エネルギー化を取り入れたい。

図書館としての機能を果たすだけでなく、利用者の感性、創造性に働きかけるような施設づくりを考えたい。

=国際こども図書館=

<施設、事業の主な概要>

明治 39 年に帝国図書館として建てられ昭和 4 年に増築されたルネサンス様式の建物を保存、再利用している。戦後、国立図書館となり国会図書館の支部となり、2000 年から児童専門図書館として開館。

敷地面積 7,733 m² (建ぺい率 60%) 床面積 12.856 m²

本館 3 階建て アーチ棟 地下 2 階 地上 3 階

利用時間 9:30~17:00

国内外の児童書と関連資料の閲覧を国際的な連携のもとに行う、児童専門図書館。

本の貸し出しはなく、閲覧、複写、レファレンスサービスを行う。

小学生以下の子ども達への児童書、中高生のための調べものの資料提供、お話し会などの子ども向けイベント開催。

児童書専門図書館、子どもと本のふれあいの場、子どもの本のミュージアムの 3 つの役割を担う。

納本制度に基づき、日本で発行された児童書、教科書を収集し、保存している。

国立国会図書館であるが、図書分類法を NDC にし、他の図書館で検索できるようにしている。

<良いと思う取り組み>

- ・ 専門性、特色のある資料・コレクションがされている。
- ・ 光天井の採用 (目に優しく、どこで読んでも影ができない)
- ・ 歴史的建造物を活かした増築、建物自体の保存を考えつつ、その良さや、貴重さが来館者に伝わりやすくしてある。
- ・ 職員の専門性が高くレファレンス機能が高く充実している。
- ・ 同じ絵本の日本語、その他の言語での出版の本を見比べることができる。

<市への提言>

- ・ 歴史的建造物、西宮の歴史を感じられるような建設や増築を考慮に入れるのも良いと思う。
- ・ 普段はほとんど出さない書庫の本や資料を、展示、おすすめ本とするのも良いと思う。

=中心市街地拠点施設アンフォーレ (安城市図書情報館) =

<主な事業内容と取り組み>

安城市 面積 86 k m² 人口約 19 万人

アンフォーレ JR 安城駅から徒歩約 5 分 図書館やホール、商業施設、駐車場からなる複

合施設

敷地面積 6,931.83 m² 建築面積 2,403.30 m² 延床面積 9,193.62 m²(うち図書館 6,808.41 m²)

地上4階 地下1階

1F 証明、旅券窓口、ホール、カフェ、多目的室 南館 スーパーマーケット、敷地内公園

2F～4F 図書情報館 南館 2F カルチャースクール 駐車場 図書館利用時間

平日 9:00～20:00 土日祝 9:00～18:00

管理運営 公共施設部 指定管理者 安城プロモーションズ 図書情報館 安城市直営

学び、健やか、交わりの場として地域文化の創出と交流を生み出し、周辺市街地の活性化を目指している。

<良いと思った取り組み>

- ・1Fの吹き抜けで開放的なエントランスに、テーブルやソファがある他、フリースペースを1m²10円で借りることができ、ほぼ毎日様々なイベントや出店がされている。
- ・1階の大型モニターで同館のイベント案内のほか、市内の観光名所、市民からの投稿記事などを紹介しており、市内の活動、生活の情報に触れやすい。
- ・館内が吹き抜けのため全階の人の様子や動きがわかり、全体で雰囲気共有できる。
- ・自然光がたくさん入るようになっている。
- ・ICタグ化され自動貸し出し機、予約が可能。また、館外で予約本を受け取れる予約本受け取り機がある。
- ・読書通帳機があり、借りた本や書籍の値段の総計などを記録できる通帳を発行するという取り組みで、遊び心をくすぐりながら読書への促しをしている。
- ・授乳やおむつ替え、子ども用のトイレなど子育て世代が利用しやすい。また0歳～3歳までの子どもと保護者が利用できるスペースがあり、ベビーベッド、食事スペースもあり、子どもや保護者が滞在しやすく、子ども同士、保護者同士の交流もできるようになっている。
- ・学校支援を積極的に行っており、各学校に司書が一人、学校教育アドバイザーがいる。また市内の学校に3週間に1回学級図書に新しい本が届くようになっている。

<市への提言>

- ・図書館建設と運営に市として力を注ぐことで、市全体の活性化、学校教育の向上を図っていくような総合的取り組みを考えたい。
- ・図書館と学校教育との密な連携を考えていきたい。

= 亀岡市 オーガニック宣言にかかる取り組みについて =

<事業の主な概要>

亀岡市 人口約8万5千人 面積224km²

京都市の西に隣接し、JR 京都駅から快速電車で約21分、高速道路で大阪府、兵庫県と結ばれ利便性が高く、豊かな自然環境がある市である。秋から春は霧に包まれる霧のまち。湯ノ花温泉、保津川下り、嵯峨野観光鉄道（トロッコ列車）が3大観光となっているほか、明智光秀、足利尊氏など歴史上の転換点としても登場する地であり、サッカーの京都サンガの本拠地であるサンガスタジアムが駅前にある。

古くから京都の穀倉地帯であり、現在も京都料理にかかせない京野菜の一大生産地となっている。

販売目的の作付け面積では、一番が水稲、二番が小豆、そのあとは順にねぎ、大豆、小麦大根となっている。出荷先の一番は農協57%、直接販売が16%、農協以外の出荷団体が10%。農業経営体は1487あり、うち有機農業にとりくんでいるのは105経営体と全体の5%となっている。

2020年～2030年の10年間で47.5%の農業従事者がリタイアの可能性があるため農業の担い手不足が深刻にありつつある。

亀岡市に生息する天然記念物アユモドキの保全を中心に据え、生物多様性の維持、環境保全、環境整備事業を構築、展開しているところであり、有機農業の推進もその一環となっている。また環境先進都市としてプラゴミゼロ宣言をし、ゴミの減量化、環境教育に力を入れてきた。

「農業の担い手確保」「農産物の付加価値化」、「減農薬による農業由来の環境負低減」などに力を入れ、市として有機農業推進の加速化を図ってきており、具体策として、生産者補助制度をつくり、有機JAS認定の取得支援、給食での有機米・野菜購入への差額支援などを行っている。

保育所、学校給食への有機野菜や有機米の導入を試験的に開始、オーガニックを進める団体との連携を図り研修会やマルシェの開催をしている。

これからは、農林水産省の「みどりの食料システム戦略」と連動しながら、①地産地消、給食への有機米、有機野菜導入の拡大、②令和6年開講予定の有機農業学校での農業の担い手育成プログラム③亀岡市での独自認証制度の検討、④オーガニックビレッジパークの整備を計画している。

このような有機農業に対する取り組みが功を奏し、若者の移住者、新規農業従事者が増えていくとのことである。令和3年実施の10年以内の新規就農85名中24名が有機農業を

実践中とのことである。

<良いと思った取り組み>

- ・有機農業を学びたいと思った人へのサポート体制づくりに力を注ぎ、有機農業参入、移住のハードルの引き下げを図っている。
- ・段階的に学校給食への有機米、有機野菜の導入を積極的に進め、子どもたちへの健康はもちろん、生産者に対し安定的な収入の確保を図っている。
- ・アユモドキを守るという 1 つの目的を中心に据えることで、環境保全、土地や住民の健康、循環型の社会、教育の充実と、つながりと一貫性のあるまちづくりとなっていること。
- ・霧の芸術祭など農協とアートの連携事業を展開し、若い人達の発想、創造性が生かせる取り組み
- ・市営の土作りセンターの堆肥改善や、市内の落ち葉を利用した堆肥づくりなど化学肥料使用の減量化をはかり、土壌環境を改善していく。

<市への提言>

- ・環境学習宣言都市である我が市も生態系の保全という観点から有機農業の推進を考えるのもよいのではないだろうか。
- ・都市部で農地も少なく、地価も高いことから農業推進が難しいとされる西宮市だが、亀岡市のように先進的に進められているところの取り組みに学び、できるところから進めていく必要があると思う。また、亀岡市のような市に協力、連携することで西宮市単独ではできない取り組みができる可能性を見いだしていけないだろうか。

委員会行政視察報告書

委員氏名 ありめ こうへい

調査の期間	令和5年（2023年）10月23日（月）～10月25日（水）
調査先 及び 調査事項	大和市 ・大和市文化創造拠点シリウスについて 武蔵野市 ・武蔵野プレイスについて 国際子ども図書館 ・国際子ども図書館について 安城市 ・中心市街地拠点施設アンフォーレ（安城市図書情報館）について 亀岡市 ・オーガニックビレッジ宣言にかかる取組について

西宮市において、「西宮市立中央図書館移転整備基本構想及び基本計画」があることから、大和市・武蔵野市・国際子ども図書館・安城市への視察が実施された。

【大和市 大和市文化創造拠点シリウスについて】

大和市にある文化総合拠点であるシリウスについては、図書館の機能だけでなく、「芸術文化ホール」、「生涯学習センター」、「屋内こども広場」の機能も持ち合わせており、子どもから、年配の方まで幅広い年代が利用できる複合施設となっている。

○シリウスの取り組みについて

・指定管理者制度を導入し運営を行っている。指定管理者は、1社だけでなく、複数の企業が参加する共同企業体（JV）の方式を取り入れている。

・指定管理者JV方式を取り入れていることで、施設内のサービス内容ごとに分けてそれぞれの企業が管理、運営を行っている。

・休館日も年末年始のみ、営業時間も9:00～21:00までとなっており、仕事帰りの方の利用しやすいようになっている。

・ワンフロアすべてが、こども専用フロアとなっており、子育て世代に配慮されている。

・子供の一時預かりあり（有料）。

・図書館のスタッフから清掃作業員まで、定期的な研修を実施している

・ホールや会議室など、年間の稼働率は、80～100%に近い高稼働となっている。

施設の利用料金については、条例で定められている。

駅の掲示板、新聞・雑誌広告、業界専門誌への掲載など年間に2千万近い広告予算が投じられている。

(当局への提言)

・指定管理を単一企業ではなく、複数企業が共同体（JV）で行うことで、各企業の専門性を最大限に活かし、高品質なサービスを市民に提供できます。

・子育て世代にとって快適な環境を整備することに焦点を置いて、施設の利用体験を向上させる必要があります。

・開館から7年経っても、施設内は常に清潔に保たれ、スタッフの高いサービス意識を維持するためには、定期的な社員研修の実施が必要。

・自習施設や託児所などの利用が高いサービスは、有料化などの方法を検討して、運営費用を最小限に抑えるべきです。

施設内で飲食が提供されることは、利用の便益を高める要因となっています。

営業時間を21時まで延長することで、仕事帰りに施設を利用できるようになり、市民にとって便益が向上します。

【武蔵野市 ・武蔵野プレイスについて】

図書館をはじめとして生涯学習支援・市民活動支援・青少年活動支援の4つの機能を備えた複合機能施設です。特に青少年活動支援について、他より重点を置いて取り組んでいる。

○武蔵野プレイスの取り組みについて

・ワンフロアを小学生から20歳までの青少年だけが利用できる専用フロアとしており、青少年が利用しやすい環境づくりを行っている。飲食も自由。

実際に10代の来館者の数は全体の27.2%と高い。

- ・指定管理者制度を導入し施設運営を行っている。
- ・2Fが子ども専用フロアになっている。子育て世代も利用しやすいスペース。
- ・生涯学習センターや市民活動の交流の場所としての機能、スペースも有している。
- ・書庫は保有していない。

(当局への提言)

武蔵野プレイスは、特に10～20代および子育て世代の利用を増加させるために、図書館の機能を向上させており、そのために様々な施策を実施しています。この取り組みにより、10～20代の利用者数が増加しています。図書館のサービス内容は、どの年齢層やニーズに焦点を当てて運営されるかに大きく影響されます。したがって、新しい図書館の計画段階においても、どの層を中心に重点を置くかについて検討が不可欠です。特に、若い世代と子育て中の世帯に焦点を当てることで、図書館はより多くの市民にとって魅力的な場所となり、地域社会への貢献度を高めることが期待されます。新図書館の設計や運営方針において、これらのターゲット層のニーズを適切に反映させるための戦略的な検討が求められます。

【国際子ども図書館について】

国内外の児童書とその関連資料に関する図書館サービスを国際的な連携のもとに行う
国立の児童書専門図書館として運営されています。

○国際子ども図書館の取り組みについて

- ・蔵書の充実：世界約 160 の国と地域の児童書や関連資料を保存
- ・国際的な関連機関との連携
- ・文化に親しむ場を提供（ミュージアム的な役割）
- ・読書に関する情報発信、活動支援
- ・体験プログラムや団体見学の実施
- ・書庫の蔵書は、厳重に保管されている。

(当局への提言)

当館は世界各国の児童書蔵書を所蔵し、学校司書や教職員にとって貴重な研究の場として活用できる場所です。さらに、東京への修学旅行などの機会を利用して、児童生徒たちの読書への興味と関心を高めるためにも当館を積極的に活用すべきです。このような施設を通じて、児童書や国際文化への理解が深まり、教育の充実に貢献することが期待できる。

【安城市・中心市街地拠点施設アンフォーレ（安城市図書情報館）について】

図書情報館やホールがある本館、イベント等が行える広場や公園がある公共施設と、民間経営による駐車場や商業施設がある複合施設。

○アンフォーレ（安城市図書情報館）の取り組み

- ・事業手法が PFI 方式を採用している。
- ・1階フロアは指定管理制度を導入、2～4階の図書情報館は、市直営で運営。
- ・図書館教育アドバイザー制度を導入し、学校司書をまとめ、学校図書館連携の中核となり、図書情報館と学校図書館との連携をとっている。
- ・学校図書の配送は、シルバー人材を活用している。
- ・図書館の館内の景観を損なわないようにポスターを貼らず、モニターを利用して案内を行っている。
- ・事業者が雑誌購入費用を負担するスポンサーになっていただき、その代わりに最新号の雑誌カバーにスポンサーの広告を掲載し、図書館内の閲覧に供するスポンサー制度を導入している。
- ・1Fフロアが貸しスペース（有料）となっており、イベントや出店が可能。

（当局への提言）

学校司書をまとめ、学校図書館と図書情報館の連携を強化するために、図書館教育アドバイザー制度の導入を検討すべきです。アンフォーレ（安城市図書情報館）がスポンサー制度を活用して、年間約80万かかる雑誌の費用を捻出している事例から、運営費の削減に効果が期待できます。また、一部フロアを貸しスペースに活用することで、賑わいを創出し、多目的な利用に貢献できます。

西宮市における将来の農のあり方、農地の利活用、将来世代への伝承について考えるため、オーガニックビレッジに認定されている亀岡市への視察が実施された。

【亀岡市・オーガニックビレッジ宣言にかかる取組について】

- ・自然との共存 天然記念物「アユモドキ」との共存
- ・一部学校給食での有機米の提供 小学校1校、年間75回程度→食育
- ・有機野菜の提供（市立保育所・こども園4園で月1回）→食育
- ・亀岡オーガニック農業スクールの開設（令和6年2月開講予定）
- ・現役就農者へのサポートに加え、新規就農者へのサポートの充実（住居・畑の場所の案内。地元への紹介など市が間に入ってサポート）
- ・亀岡市有機農業推進実施計画を策定し、国の補助金制度と市の補助金制度を活用し計画を推進している。

（当局への提言）

農業における課題の一つは、就農者の高齢化です。将来の世代に農業を継承し、特にオーガニック農業を伝えるためには、食育の観点からのアプローチが重要です。学校給食にオーガニック食材を取り入れるなど、学校教育に組み込むことが必要です。

また、新たな就農者を増やすためには、適切なサポートが不可欠です。行政や農業組織は、住居や農地の提供、農機具のレンタルや購入支援、農業スクールによる技術と知識の提供など、包括的な支援体制を構築する必要があります。これらの取り組みを通じて、農業を支え、次世代に継承していくための基盤を築いていくことが重要です。

令和5年度、民生常任委員会行政視察報告

河崎 はじめ

1 大和市文化創造拠点シリウス

大和市の愛称シリウスは、図書館、芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内こども広場の4つの機能を中心とした文化複合施設です。

大和駅から徒歩3分という好アクセスで、こどもから高齢者や子育て世代も含む多世代型施設として、設立から6年11カ月で1,850万人以上の多くの人々に利用されてきています。

過去に健康福祉常任委員会の視察で4階の健康度見える化コーナーも見せてもらいました。

6階建てのシリウスは、全館が図書館であり、1階、2階には自動貸出機や蔵書検索機を備えており、全ての本はICタグで管理されているので、どの階でも自由に持ち運んでお気に入りのスペースで読書することができます。

運営主体は、大和市内の7つの文化施設を管理運営する6社の民間企業からなる共同事業体の総称、やまとみらいが非公募の指定管理者として行っています。

6社は図書や広告、おもちゃメーカー、ビルのメンテナンス等、餅は餅屋の運営に必要な企業がジョイントしており、300名のスタッフが3交代で働いています。

休館日は正月だけ(階により2日～6日)。開館時間は9時～20時、22時(階により異なる)と市民サービスの満足できるものです。

2 武蔵野市 武蔵野プレイス

武蔵野プレイスは、武蔵野市が JR 中央線武蔵境駅南口前に有った政府食糧倉庫の払い下げを受けて、平成 23 年に図書館、市民活動支援、青少年活動支援、生涯学習支援の機能を持つ複合機能施設として開館しました。

地上 4 階、地下 3 階の旧食糧倉庫としてのユニークな建物の内部空間や大きな柱を活用して、人に優しい、包み込むような空間で滞在型図書館を目指しています。また各階中央あたりに広場的スペースを確保して、より交流しやすい環境を作り出しています。

駅からすぐという好立地ということもあるでしょうが、昨年度の来館者が 144 万人を上回り(コロナ禍前は 190 万人以上)、市の人口の約 10 倍というのは驚きです。

管理運営は公益財団法人武蔵野文化生涯学習事業団に非公募の指定管理契約で行っています。

開館時間は 9 時 30 分～22 時。毎週水曜日が休館日です。

武蔵野市には、他に吉祥寺図書館、中央図書館が有ります。

吉祥寺図書館は駅前情報拠点として地域密着情報の充実を目指して指定管理が運営しています。

中央図書館は市の「知」を支える政策立案拠点として市の直営として多様な資料の収集提供を目指しています。

そんな中、武蔵野プレイスは多世代の交流拠点として、芸術関連資料や施設の多機能との連携を考慮した資料の充実を目指しています。

市として 3 館の個性に合わせて資料収集をしているところもユニークだと思いました。

3 館の合計年間貸出冊数は人口 10～15 万人未満の自治体で数 10 年以上、1 位を続けています。

また近郊の大学と生涯学習支援事業で連携しているが、図書館でも連携しているのは、真似る努力の価値有りと思います。

3 国際子ども図書館(国立国会図書館)

JR 上野駅から公園を抜けてすぐのところに、明治 39 年(1906 年)に帝国図書館として創建された厳かな建物、現在の国立の児童専門図書館の国際子ども図書館があります。

中には昭和初期の宰相犬養毅の自署が残されていました。

ここの 3 つの役割を記しておきます。

- ① 児童書専門図書館として、日本や外国の子どもの本を集めて、調べものに役立てること。
- ② 子どもと本のふれあいの場として全ての子どもに図書館や読書に親しむきっかけを作ること。
- ③ 子どもの本のミュージアムとして、文化に親しむ場を提供すること。

取組みとしては、幼稚園児～高校生までの児童・生徒の見学を受け入れていること。

また、全国の学校図書館に 40 冊の本を 1 セットにして無料で貸出しています。

セットには、国際理解、科学、バリアフリーがあります。

利用すれば、学校図書館の充実になると思います。

4 安城市図書情報館（アンフォーレ）

平成 29 年(2017 年)、中心市街地拠点施設のアンフォーレ内に安城市図書情報館がオープンしました。

その時点でアンフォーレ本館の入場者数は年間 100 万人を超えていました。

当時の市長は、図書情報館の建設に先駆けて、紙の時代から電子の時代への移行で、図書館が不要になる時代の到来を危惧してニューヨーク市やフィラデルフィア市の公共図書館や大学図書館の視察を行いました。

その結果、図書館の電子化が進んでも紙媒体の資料が無くなることはなく、むしろ、紙と電子を融合したサービスを提供することが図書館の使命。資源のない日本で、取組むべきことは人材の育成であり、多彩な知的訓練を受けられ、かつ最新の社会情勢が入手可能な知の拠点として、新図書館の建設は焦眉の課題と確信して、当時の中央図書館(3,945 m²)の 1.5 倍以上の 7,000 m²規模の新図書館の計画を推し進め、安城市図書情報館の完成をみました。

また、それに先駆けて、平成 21 年度に中央図書館の窓口業務の民間委託を市の直営に戻し、職員の知識・技能の向上に努め、中長期的な視点に基づいた蔵書構築と高品質なサービス提供に取り組んでいます。

今後も専門知識・技能を蓄積し、関係各課と密接に連携したサービスを、市が責任を持って行うため、図書情報館の運営は直営を堅持するとされています。

以上のようなコンセプトで成り立っているところから、本の検索、予約、貸出、返却等のシステムは 10 億円以上掛けており年間の保守管理も 6,000 万円以上の凄いシステムも拝見させていただきました。

財政力指数 1.26 と全市町村 20 位、経常収支比率 81.9%。のうらやましい状態で、中心市街地もはっきりしており投資し易い街だと思いました。

他に特徴的なのは、市内 9 か所の公民館にも図書室が有り、検索システム等も一元管理されており、貸出、返却も出来ます。

また、市内全ての小中学校の図書館と公共図書館のシステムが連携されています。

さらに読み物を中心に各小学校には 380 冊、各中学校には 180 冊の本をコンテナに詰めて朝読用として 3 週間毎に配送しています。

他にも調べ学習用として授業で使う本を配送するテーマ便や予約図書の配送であるきーぼー便もあります。

シルバー人材センターが配送を請負っているユニークな制度です。

子どもの頃から本に親しみ、図書館になじむのに良い方法だと思いました。

5 亀岡市 オーガニックビレッジ宣言にかかる取組みについて

亀岡市では、給食へのお米を始めとする有機農産物の導入や生産者の育成など、有機農業を推進することで、次代を担う子どもたちに豊かな自然と食、農を引継ぐために、2023年2月12日にオーガニックビレッジを宣言しました。

宣言から1年未満ですので、まだまだこれからの取組みが多いのですが、子どもに優しいまちとして、小学校オーガニック米給食の実施拡大と食育体験の実施、今後、中学校での給食開始に伴うオーガニック活用。

また有機農業の市場が急速に拡大する中、この10年間で85名の新規就農者中24名が有機農業を実践していること等から、今後有機農業を学べる亀岡オーガニック農業スクールの設立等にも取組む予定です。

中でも特に興味深かったのは、JR 亀岡駅北側の保津川との間の14haの京都・亀岡保津川公園をオーガニックビレッジパークとして、水田を軸とした原風景の維持なども含めた発信の拠点として活用していく予定が有ることです。

都市公園の位置づけですが、天然記念物のアユモドキの保全や生物多様性の維持ということで、公園の目的外使用が出来れば、市の名物拠点のひとつになると思います。

提言(図書館)

新中央図書館については、最近(2023年11月)、「阪神西宮駅北側エリアの再生について」の中で、駅直結の約 5,000 m²の公民複合施設。そして従来の図書館の概念を超えた、多世代の人々が気軽に訪れ、知識を深め、趣味を楽しめる新たなサードプレイスの提案があり、また利用者が活用しやすい様々な ICT 関連機能の導入も合わせて提案されたところです。

公共施設の床面積の拡大を抑制する中、新中央図書館だけ大きくすることは難しくなっています。

また本市は中心市街地のはっきりと定まった都市ではないので、この機会に分散している市民サービス関連施設を集約し、今回の視察事例のような大きな複合施設としての図書館を新設することも難しくなっています。

そういう厳しい状況の中、まずは図書機能の充実を図ること、ICT 関連機能の導入で図書館と図書機能を持つ施設で情報を一元管理して、各家庭からネットで図書を検索し、時間外の貸出、返却機能をより一層充実させること。

難しいのは分かるが、統合できる市民サービス施設、統合することで維持管理経費が削減可能な施設等は統廃合すること。

視察先を参考に、市民が憩える色々なコーナー分けの有る、新しい図書館の創造を目指して欲しい。

提言(市民と農の交流)

亀岡市のような 10 年間で 85 名の新規就農者がある市と比較して本市の農業政策の優先度は低い。

しかし、市民農園の人気は高く、野菜の直売所は 28 か所以上で日々活発に取引されています。

地産地消の原点とも言える直売所で、既存の設立等の補助金に加えて、スーパーや量販店では手に入りにくい野菜類の有機栽培や種苗に補助金を出し、さらに珍しい食材としての美味しい食べ方等のレシピを付けて、市民との交流を促せるような仕掛けをしてはどうかと思います。

学校給食においては、可能な限りの学校で地産地消、中でも有機栽培の食材を積極的に取り入れ、食育を推し進めてください。

委員会行政視察報告書

委員氏名 浜口ひとし

<視察先及び調査事項>

- 大和市文化創造拠点シリウス「図書館他について」【神奈川県大和市】10月23日14時～16時
- 武蔵野プレイス「図書館他について」【東京都武蔵野市】10月24日10時～11時半
- 国際子ども図書館「図書館他について」【東京都台東区】10月24日14時～15時半
- アンフォーレ「図書館他について」【愛知県安城市】10月25日10時～11時半
- 亀岡市「オーガニックビレッジについて」【京都府亀岡市】10月24日15時～16時半

大和市文化創造拠点シリウス

大和市文化創造拠点シリウスは小田急江ノ島線大和駅から徒歩約6分の場所にある複合施設である。6階建てでそれぞれの階にはテーマが設けられている。

1階「感動が生まれる 感性と創造の場」

ターバックスが運営するカフェスペースと新刊や雑誌などが気楽に読めるスペース、1007席（1階795席、2階212席）のメインホール、272席（平土間使用可能）のサブホール、天上が4mあるギャラリー（219.3㎡）が整備されている。



2階「楽しく語り合う 市民交流のフロア」

政治や法律など専門書が並んでおり、一部有料の座席が設けられており券売機で管理されている。このフロアには市民交流ラウンジという有料席が85席設けられており、発券機で購入して利用（1時間につき100円）する形式となっている。



3階「思い切り遊んで学ぶ 大和こどもの国」

こどもの本を扱うフロアになっており、こどもの絵本や書籍が並んでいた。3歳から小学2年生を対象に有料で利用可能なげんきっこ広場や、0歳から2歳までの乳幼児を対象に無料で利用出来るちびっこ広場など、子どもを遊ばせることが出来るスペースが設けられている。さらに最大4時間まで子どもを預かる保育室も完備されており、子育て中の親にとっても過ごしやすいスペースとなっている。



4階「くつろぎながら本に親しむ 健康都市図書館」

健康をテーマに関連する書籍が並ぶ。また体組成計・骨健康度測定器・電動血圧気・血管年齢測定器・脳年齢測定器など自由に無料で利用できることで、健康への関心を高めるよう工夫されている。健康テラスでは「減塩って難しい!?ここちよく薄口にするには」という講義が実施されていた。



5階「調べて学ぶ図書館」

調査・学習をメインとした静かな環境で読書を行う為のフロアとなっている。また点字図書や録音図書、活字による読書が困難な方の為の対面朗読室など、インクルーシブ環境が充実していた。(撮影不可)

6階「仲間と集い学ぶ 障害学習センター」

予約なしで利用できる交流空間の他、定員145名の講習室、大小5つの会議室、7台の調理台と各調理器具が揃った調理実習室（会議室にも使用可能）などが整備されている。

それぞれの階のコンセプトが明確であり、同線やレイアウトが非常に良く考えられていると感じた。



本の貸し出し手続きを自分で出来る端末を各階に設けているだけでなく、返却も児童で仕訳を行うシステムを導入。全書籍にICタグを導入し、職員の作業負担軽減と効率化を図っていた。また館内には携帯電話で通話が可能な部屋を設けるなど、現代ニーズを汲み取ったサービスも各所に見られるのが特徴的だった。



シリウス最大の特徴は、指定管理「やまとみらい」が以下6つの民間起業による共同事業体（JV）であること。

- 株式会社 図書館流通センター
- サントリーパブリシティサービス 株式会社
- 株式会社 小学館集英社プロダクション
- 株式会社 明日香
- 株式会社 ボーネルンド
- 横浜ビルシステム 株式会社

「やまとみらい」はシリウスの他に、つきみ野学習センター・中央林間図書館・市民交流拠点ポラリス・桜丘学習センター・渋谷学習センター・渋谷図書館の計7つの施設も管理・運営を行っている。

シリウスの総工費は約161億円、総延べ床面積は約25,000㎡。営業日数は363日。総冊数約48万で内23万冊が書庫に保管されており、毎年約15000冊の新書を購入（予算額は約3000万円）している。市内には17カ所の返却ポストが設置されており、シルバー人材派遣会社に回収業務を委託している。



SiRiUS

大和市文化創造拠点シリウス

神奈川県大和市大和南一丁目8番1号
046-263-0214

「ひと・まち・情報 創造館」武蔵野プレイス

「ひと・まち・情報 創造館」武蔵野プレイスは JR 中央線武蔵境駅から徒歩約2分の場所にある、図書館・生涯学習支援・市民活動支援・青少年活動支援の4つの機能を備えた地上4階、地下3階の複合機能施設である。



1階 パークラウンジ

入口前には IC タグを利用した自動貸出機や図書館検索機が並んでいる。また近くに新しく購入した本や当日返却された本を並べる棚が設置され、ニーズに沿った対応が可能となっている。奥には30種類の新聞や600タイトルの雑誌が並べられている。中央にはカフェが運営されており、館内の図書を持ち込んでお茶を飲みながら読書を楽しむことも出来る。

2階 コミュニケーションライブラリー

子どもの本が並ぶ子どもライブラリースペースと料理・健康・スポーツなどの日常生活に関する本が並ぶテーマライブラリースペースが分けられている。子どもライブラリーには靴を脱いで本を読める「おはなしのへや」があり、授乳や幼児用トイレも完備されている。テーマライブラリーではシンプルな構造でわかりやすく書籍が陳列されており、窓側に並ぶソファでゆっくりと読書を楽しむことが出来る。子どものスペースと一般のスペースをわけることによって、お互いが気兼ねなく利用できるよう配慮されている点はとても良いと感じた。



3階 ワークラウンジ

主に市民活動や障害学習を支援するフロア。市民活動に関する情報や団体紹介を行うフロアがあり、団体が資料等を保管する目的に有料で利用できるロッカーも完備されている。その他ミーティングなど自由に使えるオープンスペースや市民活動団体が利用出来るプリント工房、生涯学習の方等が活用できる会議室（有料）や56席の学習スペース（図書カード保有者のみ無料）が完備されている。



4階 ワークテラス

最大150人が入れる会議室、個人学習の為に整備されたワーキングデスク（有料）が整備されている。

地下1階 メインライブラリー

雑誌も含めて約9万冊の本が並べられている。図書スタッフによるテーマに沿った図書を展示するコーナーを設けるほか、視覚障害者のための拡大読書機や視覚障害や学習障害のある方のための使う録音資料を作成する防音室も整備されており、インクルーシブ環境にも力を入れている。



地下2階 ティーンズスタジオ

若者が活用出来るスペース。中央には若者が自由にくつろげるラウンジが整備されており、周囲にはドラムや管楽器など大きな音が出る楽器を演奏できる防音設備が施されたサウンドスタジオ、かんたんな料理や工芸が出来るクラフトスタジオ、卓球やボルタリングなど軽い運動が出来るオープンスタジオが整備されている。また奥には青少年向けの雑誌や芸術関連の本など1万8000冊の本を並べたアート&ティーンズライブラリースペースを設けている。



食糧倉庫だった跡地を活用して平成23年に完成。延床面積9809㎡、蔵書数18.5万冊で書庫は設けていない。総工費は約37.1億円。公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団が運営。



〒180-0023東京都武蔵野市境南町2丁目3-18
0422-30-1905

国立国会図書 国際子ども図書館

1906（明治39）年に建設された帝国図書館を保存・再利用して作られた図書館。国立図書館として初めて児童書専門図書館として2000（平成12）年に開館、設計には安藤忠雄司が関わる。国立国会図書館は立法府である国会に属しており、国際子ども図書館の他に東京本館・関西館がある。国立国会図書館の令和5年度の当初予算は約198億7,400万円、このうち資料に関わる経費は約22億7,200万円との報告がある。



国際子ども図書館の使命は、国内外の豊富な資料と情報資源を活用し、子どもの本に関わる活動や調査研究を支援するとされている。児童書専門図書館としての役割、子どもと本のふれあいの場としての役割、子どもの本のミュージアムとしての役割という3つの役割

を基本とする。図書館の役割として、国内だけでなく国外も合わせた約44.7万冊の図書、約2000タイトルの雑誌を所有する。

ふれあいの場の役割として、学校図書支援として外国語図書含む児童書の貸出や、中高生向けに図書を活用した調査を体験出来るプログラムの実施等を行っている。



ミュージアムとしての役割として、ちりめん本や赤い鳥など歴史的にも貴重なものから、外国の児童書まで幅広く展示されており、児童書における歴史の流れを感じることができる。

敷地面積は7733㎡、施設の延床面積はレンガ棟6672㎡、アーチ棟6184㎡。書庫収蔵能力は両方で約105万冊。JR上野駅から徒歩約14分。



〒110-0007東京都台東区上野公園12-49
03-3827-2043

安城市中心市街地拠点施設 アンフォーレ

アンフォーレは図書館やホール、立体駐車場、商業施設などが集まる複合施設である。本館は地下1階から4階の施設で、地下には2つの会議室、1階には3つの多目的室、1・2階を使ったホール（客席数255席）が設置されている。1階のエントランスは区分貸しも行っており、1㎡あたり10円で地域の方が自由に使うことができる。



2階から4階は図書館のフロアになっている。アンフォーレの図書館でも2階が子どものフロア、3階が暮らしのフロア、4階が学問と芸術のフロアというようにテーマで分けられている。1階から4階まで中央が吹き抜けとなっているほか、多くの窓ガラスによって自然光が施設内へ豊かに入る作りとなっており、心地よい解放感が楽しめる図書館となっている。一方で、日差しは書籍の日焼けに影響があるため善し悪しがあるとの話も伺った。



子どものフロアでは、安城にゆかりのある童話「ごんぎつね」の作者、新美南吉の作品を紹介する「なんきちさんのへや」がある。また中央におはなし会を行うための「でんでんむしのへや」や、0歳から3歳までの子どもと保護者が利用出来る「つどいのへや」など、子どもだけでなく子育ての親にとっても居心地の良い空間となっている。



暮らしのフロアではビジネス、健康、旅行など暮らしに役立つ本が揃う。またグループ学習室やディスカッションスペースなど、交流も可能となってる。学問と芸術のフロアでは歴史・芸術・文学を主体に揃えている。ここでは個人学習が可能なスペースが設けられており、幅広い年齢層が利用している。

アンフォーレは様々な機器を利用して施設の利便性向上を目指している。24時間返却が可能な自動返却機や館内の案内やイベントを告知出来るタッチパネル、子どもの読書への意欲を向上させるための読書通帳など、ICTを駆使した取り組みを積極的に導入していた。一方導入費や維持費も高額な為、費用対効果を見極めておく必要はあると感じた。



書庫については、極めて小さな物だった。施設の延床面積は図書館のみで約6,808㎡と広く、蔵書約45万冊に対して公開図書は約34万冊となっている。

アンフォーレの取り組みでは、児童・生徒からのリクエストや、学校教材としてテーマに沿ったものなどを中心に、市内の学校へ3週間に1回本を配送している。全学校に1人司書を配置しており、学校図書との連携を強く意識した取り組みになっている。



アンフォーレは市直営で運営されている。JR安城駅から徒歩5分。平成29年6月に開館された新しい施設。建築費はPFIによる手法で約45億円。273台の立体駐車場（有料）を整備。



アンフォーレ
anforet

〒446-0032愛知県安城市御幸本町12-1
0566-76-6111

図書館の視察を終えての提言

西宮市では中央図書館を阪神西宮駅北側への移転を計画している。現中央図書館の位置は香櫨園駅から徒歩7分の場所にあるが、西宮市の南西に位置することから市民全体の利便性という観点では決して立地の良い場所とは言い難い。また駐車場が殆どなく、海岸にも近いことから津波による書物への被害も懸念されている。



新しい移転先の候補地は、西宮駅から北へ歩いて徒歩1分の場所となる。阪神西宮駅は市役所も近く、複数のバス路線が経由するターミナルでもある。この場所へ新たな図書館を移転することは、多くの西宮市民に利用されることが期待できる。

新たに図書館を整備するにあたり、以下の提言を行う。

●財政状況や公共施設マネジメントの進捗を勘案しながら、慎重に計画を進めること

公共施設は過剰に整備すると維持・管理費が上がり、将来の負担となる可能性がある。新中央図書館を整備する場合は、旧図書館施設を整理することが前提である。新中央図書館整備については財政状況に応じて判断すること、また整備する場合は旧中央図書館の施設を処分することを前提に進めること。

●コンパクトに、シンプルに、機能的に整備を行うこと

新たな整備予定地は駅から徒歩1分という好立地であることから、土地の価格が以前に比べて高くなる。事業手法が明かとなっていないが、可能な限りコンパクトにすることが求められる。本を借りる方は目的があって来館される方が大半であると推察する。であるならば検索システムをより強化すれば利便性は十分得られると考える。現状の中央図書館で並べられている本の中で1年間全く借りられていない本の数を確認することも必要である。開書スペースを小さくすること、ゆったり読書出来るスペースやテーマ・コンセプトコーナーを増やすこと、書庫は管理面や機能性を考え小さな面積でたくさんの本を収めるよう工夫することなどが必要である。機能性を重視したコンパクトな図書館の整備を行うこと。

●地域市民への学校図書解放を前提に、新中央図書館との連携を強化すること

新中央図書館を整備したことによって西宮市民の全ての方が図書館を利用出来るとは限らない。地域にある小・中学校の学校図書を解放し、新中央図書館と連携することで新中央図書館整備への価値をより大きく出来ると考える。学校図書に司書を配置し、地域の子どもから高齢者まで幅広い方々に本を読んで頂ける環境こそ、文教住宅都市西宮が目指す方向性である。限られた学校図書のスペースの中で多くの方が本を読むことへの興味・関心を抱いていただけるよう、図書館検索サイトの改善を含む予約本の受付環境の強化・司書による定期テーマコーナー開設、子ども向け読み聞かせイベントなど、地域が集う学校図書の整備と新中央図書館のセントラル機能整備を行うこと。

亀岡市 オーガニックビレッジの取り組み

亀岡市は奈良県の宇陀市に続き、全国で2番目にオーガニックビレッジ宣言を行った自治体である。2050年までに有機農業の推進目標、取組面積割合を25%（100万ヘクタール）に拡大するとし、持続可能性の高い循環型の有機農業を推進していくことを目指すとしている。オーガニックへの意識は年々高まりつつある一方で、生産コスト高や生産量も多くないことなどが理由で亀岡市で実施されている農業全体におけるオーガニックの比率は伸び悩んでいる。しかし学校給食へオーガニック米の提供を増やしていくなど、オーガニックについて考える機会を食育として学校に提供する取り組みは大いに評価できる。

亀岡市の視察を終えての提言

西宮市は農業の盛んな街とは言えないものの、市街から車で10分程移動した場所に農地が広がる環境は活かすべきと考える。特に将来の食を考える為にも、子どもへの教育資材としての活用は有効だと考える。

●事業の目的に興味・関心高い企業・団体へのサウンディング調査を実施すること

農地を活用して子どもたちの食育活動を実施する企業・団体に対して、事業内容・必要な農地面積・取り組みを妨げる課題など、事前のニーズを確認するためのサウンディング調査を実施すること。

●事業に必要な農地を市が所有し、市が窓口として企業・団体との契約を行うこと

農地所有者との個別契約は企業や団体が不安を持つ可能性がある。信頼性を高める為にも、一旦活用する農地は市が保有し、市が企業や団体との窓口となって契約を行うべき。

●あくまで運営は民間によって行い、市が直接実施しないこと

民間の力を最大限活用することが重要である。市が直接実施することなく、事業を行うこと。

●大和市

・大和市文化創造拠点シリウスについて

10日23日（月）14:00～

文化創造拠点シリウスは、小田急江ノ島線と相鉄本線大和駅から徒歩3分のアクセスのよい位置に立地しており、「図書館」「芸術文化ホール」「生涯学習センター」「屋内子ども広場」の4つの機能を有する、地下1階、地上6階の文化複合施設です。

「シリウス」の名の由来は、おおいぬ座を代表する地球から見える恒星の中で最も明るい一等星として、市民から愛される施設になるように名づけられました。

運営はやまとみらいが指定管理者として、それぞれの共同事業体として、例えば芸術文化ホールをサントリーパブリシティ（株）が運営するなど6社が強みを生かした運営を行っています。



カフェを楽しめる1階フロアは、広々とした空間とゆったりしたソファで、心地よい時間を過ごすことができます。その隣には、メインホール、サブホール、ギャラリーが常設しており、稼働率も高く、市民が身近に芸術文化に触れることができます。

この地域はひったくりなどの犯罪も多く、決して治安の良い街とは言えなかったようですが、シリウスができてからはそれも改善され、良い相乗効果が生まれました。

2階 市民交流ラウンジ…有料（100円/1h）でセカンドオフィスとして利用できます。

85席（写真）

3階 大和こどもの国…子ども図書館を始め親子でゆっくりと過ごせます。

4階 健康都市図書館…「健康都市やまと」を支える施設。

5階 調べて学ぶ図書館…とても静かな環境で、本棚や読書室の家具はブラウンを基調とした落ち着いた空間。

6階 生涯学習センター…市民交流センター



【まとめ】視察をさせていただいたのは、平日の月曜日でしたが、来館者の方が途切れることなく訪れていました。本年7周年を迎えるシリウスの来場者数は1832万人で、この施設の運営を約200人のスタッフが行っているとのこと。

シリウスの成功をもたらした要因の一つとしては、アクセスの良さと複数の鉄道が接続する位置に建設できたことで、「西宮市では鉄道が南北で分断されており、各鉄道が核となる駅を要しており、シリウスのような大型施設を望むより、シリウスが有する各フロアの機能を、現在計画されている阪神西宮北側の開発計画の新図書館に活かせるように取り入れていただきたい、また既存の図書館についても、例えば大学交流センター、北口図書館の連携にしても、改善の余地は十分にあると思います。」

●武蔵野市

- ・武蔵野プレイスについて

10月24日（火）10：00～

「武蔵野市立ひと・まち・情報創造館 武蔵野プレイス」は2011年7月に開館され、武蔵境駅を降りると目の前にジブリに描かれているような外観が目に入ります。

建設地は元々農林水産省所有の食料倉庫の跡地を武蔵野市が購入し、武蔵野プレイスとして基本計画が策定されましたが、新市長が計画の見直しを表明し、紆余曲折の末現在に至っています。

この施設は地下2階、地上4階から構成されており、人にやさしい包み込むような空間をテーマに「図書館機能」「生涯学習支援機能」「市民活動機能」「青少年活動機能」の4つの機能が連携しています。



境南ふれあい広場公園は武蔵野プレイスと一体的に整備された約2,000㎡の都市公園で、広場公園では野外イベントなどが可能で、武蔵野プレイスの事業の幅を広げています。

所管は武蔵野市教育委員会生涯学習スポーツ課で、指定管理として、公益財団法人武蔵野文化生涯学習事業団が担っており、管理費は約5,6億円。

特徴は地下2階にティーンズスタジオが設置されており、この日も数人の青年がゆったりとした時間を過ごしていました。また地下1階にはメインライブラリーととても落ち着いた空間が確保されています。1階はカフェを中心にとっても活気のある空間になり、2階～4階についてもそれぞれの機能を丁寧に配置されている印象を持ちました。



2階子ども向けフロア



円系の仕切りにやさしさを感じます。

【まとめ】武蔵野プレイスを視察して感じたことは、光の柔らかさを実感しました。空間を全体的に包み込むような照明と外部から取り入れる自然の光がとても心地よく感じました。また音についても1階は人の出入りやカフェなど雑音を感じられるが、青年の居場所としての地下2階はとても静かで、これについては各フロアについても同様な感想を持ちました。それぞれの機能に応じた静けさや照明の役割が最大限に発揮されていると実感でき、施設の機能に応じた設備（照明や防音、家具の種類など）は、重要な要素であると思います。

●台東区

・国立国会図書館 国際こども図書館について

10月24日（火）14：00～

国際子ども図書館は「子どもの本は世界をつなぎ、未来を拓く」の理念のもと 2000年（平成12年9月）に設立されました。もともとは帝国図書館として建てられ、戦後国立図書館として名称を変え現在に至っています。



外観は明治以来の趣を残し、保存・復元をしています。

当初の全体計画は、地下1階、地上3階で口の字形の平面で古典主義様式の建築の予定でしたが、途中で予算が足らず、建築規模を縮小し、その後平成になって、アーチ棟の建設を行い、中庭を中心にレンガ棟とアーチ棟を連絡できるようにつなげ、現在の国立角界図書館「国際子ども図書館」として、役割を担っています。

この図書館は、国内外の豊富な資料と情報資源を活用し、子どもの本に関わる活動や調査研究を支援することを使命にして、以下3つの役割を果たしています。

- 児童書専門図書館としての役割**・蔵書の充実・児童書に関する情報提供・児童サービス関係者に対する支援・関係機関との連携及び広報
- 子どもと本のふれあいの場としての役割**・子供を読書に誘うための情報発信・身近な図書館における読書活動への支援・国際子ども図書館における実践
- 子どもの本のミュージアムとしての役割**・展示会・文化に親しむ場としての図書館

レンガ棟1階には、子どものへや（小学校以下の子どものための児童書）、世界を知るへや（世界の国や地域の地理、歴史、文化等を紹介した児童書）、おはなしのへやが

あり、レンガ棟 2 階には児童書ギャラリー（子どもの本の歩みをたどる展示会）、調べもののへや（中高生の調べものに役立つ資料）の機能をもたせてあり、アーチ棟には、

児童書研究資料室（国内外の児童書を研究）、本のミュージアム（展示会等）、ホール（音楽会等のイベント）、休憩・飲食、授乳スペースほか研究室が入っています



国際子ども図書館正面玄関

【まとめ】今回視察しました国際子ども図書館は、建造物としても、貴重な価値があります。例えば大階段では、明治期の鋳鉄製の手すりは見ごたえがあり、その他創建時から使用されているシャンデリア、木製のケヤキ材でできた建具は当時のもので、西宮市の児童生徒には是非とも見学に行く機会を設けてほしいと感じました。

また児童書については、世界の絵本を拝見すると、その国の生活の様子が垣間見れたり、色使いもその国の特徴が感じられたりと感性に響くものが感じられました。

この図書館では、「児童生徒の見学」「学校図書館セット貸出し」なども実施していますので、連携してみてもどうかと思います。

西宮市では阪神西宮駅北側の開発で新図書館が計画されています。小さな時から本に慣れ親しんでいただく場として、機能面や空間など参考にして取り組んでいただくように期待します。

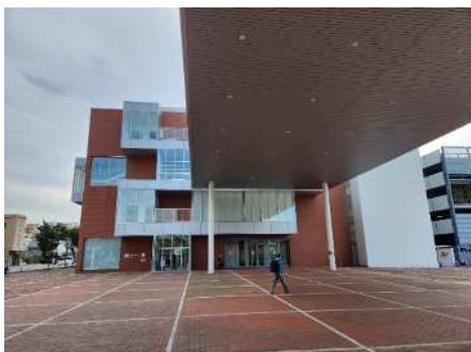
●安城市

- ・中心市街地拠点施設アンフォーレ（安城市図書館）について

10月25日（水）10：00～

「アンフォーレ」建設以前は、安城更生病院が市民の健康を守ってきましたが、手狭となり平成14年に移転、その後地域の商店街の方々との協議で、集客のある施設を希望する声にこたえる形で、アンフォーレが誕生しました。

「アンフォーレ」はJR安城駅から徒歩5分の場所に位置し、図書館機能を中心として、建物の前面には「願いごと広場」1階ホールとエントランスでは安価で利用できる市民による出店などが賑わいを創出していました。2階の子どもフロアでは「でんでんむしのへや」（おはなしコーナー）を中心に設置されている椅子や机なども年代に配慮したものが使用されていました。



【願い事広場】…キッチンカーなど市民の方が様々なイベントを楽しむことができるスペース

【アンフォーレ】…アンは安城のアン、フォーレはフランス語で森を意味する。心ひとつに力を合わせて未来への発展を目指し安城市という意味が込められています。

3階には図書館や学習室ほか健康支援室、安城ビジネスコンシェルジュを配置した、ビジネス支援センターが配置され、地域経済の活性化を目指しています。

4階には個人に合わせ集中できる時間を過ごせる空間が確保されています。

アンフォーレは自然の光が多く取り込まれ、吹き抜けによって全体的に明るい、広々とした空間に個人学習室「でん」（予約制の個人スペース）と言われる出窓的な空間に、落ち着いた大切な時間を過ごせます。

①建物はPFI ②1階は指定管理者
③2～4階は直営で運営しています。



その他、5階の事務所では、教育委員会と連携して市内21の小学校と8の中学校に、読んでほしい図書を定期的に図書館から学校へ配送する取り組みを行っています。

【まとめ】現地についた時から広場を中心とした空間、建物のデザインに魅了されました。特に森を連想させるキュービクルなデザインに斬新さを感じ、館内では1階ホール、多目的室から5階の事務所の役割を拝見させていただき、順次4階から見学させていただきました。

印象としては明るさと見晴らしの良さの中にも、個人の時間を大切にする空間の確保、その中で予約本受取機、ブックシャワー、読書通帳機など人（職員）の手を煩わないシステムの導入の必要性を感じました。まさにコンセプトにある森の中で、老若男女が学びを中心とした個々の心の栄養を得るような場所であると思います。

西宮市には核となる図書館や他の機能を兼ね備えた施設はなく、それぞれが独立（分散）して存在しているため、新図書館の計画では、その課題を少しでも解消できるような取り組みを期待します。

●亀岡市

- ・オーガニックビレッジ宣言にかかる取り組みについて

10月25日（水）15：00～

亀岡市の地形は盆地になっており、秋から春にかけて霧に包まれるまちで、観光の名所としては湯の花温泉や保津川下り、トロッコ列車にも多くの方が足を運びます。

また2020年にはサッカーチームの京都サンガのホームスタジアム「サンガスタジアム」がオープンするなど、街のポテンシャルの高さを感じました。

亀岡市の農業経営体は1,487（うち法人30）で販売金額50万円未満が684経営体と小規模農家の割合が多く副業的農家の割合は78%、そのうち有機農業に取り組んでいる経営体は105（7%）となっています。

JR 亀岡駅の京都・亀岡保津川公園にサンガスタジアムの建設予定が、そばを流れる桂川に天然記念物のアユモドキが生息（岡山県と亀岡市のみ）し、生態系の保全のため、スタジアムを現在の地に予定地の公園を市が買い取り、その活用としてオーガニックビレッジパークとして有機農業の拠点として活用することを目指すようになりました。

亀岡市でも農業従事者の高齢化に伴い、新たな担い手の育成に取り組む中で、有機農業の推進を加速化する方針で、事業の推進をするためこれまでの有機農業の取り組みとして

【生産者への補助制度の創設】…有機 JAS 認証取得支援、給食での有機米・野菜購入に対する補助など

【保育所・学校給食への有機野菜・米導入】…2022年6月保津小で試験的に有機米提供開始。同7月市立保育所・こども園で有機野菜提供。

【オーガニックを進める団体との連携】…自然派京都有機農業推進協議会（研修会開催など）

を進めてきましたが、今後さらなる取り組みとして

実施計画(2023~2027)

【地産地消・給食への展開拡大】…学校給食への有機米給食導入への拡大として、中学校にも拡大。

【有機農業の学校(育成プログラム)】…有機農業を学ぶ学校の検討（民間との連携）

【独自認証制度】…従来の認証では2年間の実証が必要で、時間を要するので、独自の認証制度を検討。

【市民参加と京都亀岡保津川公園】…有機農業の拠点としてオーガニックビバレッジパークを整備。2026（令和8）全国都市緑化フェアに合わせて開園準備。

の実施計画を進めていきます。そこで**亀岡市は2023年2月12日に「オーガニックビレッジ」を宣言**しました。その結果農業を志す方の相談や転入が増えているそうですが、課題は有機農法による生産性の難しさとのことで、それについては生産者へのサポートとしての取り組みを行い、就農者の一番の障壁となっている初期投資の解消を目指していくとされています

- 有機農業を学びたい人へのサポート
- 就農へのハードの引き下げ
- 有機農業参入のハードル引き下げ
- 資機材の調達

【まとめ】亀岡市の有機農業の取り組みは決して先進的ではなく、後発でありそれを補うため、先進の取り組みを吸収しようとの思いを強く感じました。また有機米を使っての学校給食への提供は、評判も良く令和9年度には中学校にも拡大するため、量の確保といった課題にも挑戦をしていて、亀岡市の意欲を感じました。

また、新たな担い手の就農希望者に対して、地元農業者の皆様との連携は欠かすことのできないものであり、そのうえ行政の支援が重なって、重層的な取り組みが農業を目指す方にとっての不安を軽くし、好循環を生んでいるのではないかと思います。

民生常任委員会行政視察報告書

民生常任委員会委員 八木 米太郎

調査の期間	令和5年(2023年)10月23日(月)～10月25日(水)
調査先 及び 調査事項	大和市 ・大和市文化創造拠点シリウスについて 武蔵野市 ・武蔵野プレイスについて 国立国会図書館 国際子ども図書館 ・国際子ども図書館について 安城市 ・中心市街地拠点施設アンフォーレ(安城市図書情報館)について 亀岡市 ・オーガニックビレッジ宣言にかかる取組について

はじめに

今回の視察は、今年度本委員会の施策研究テーマ「図書館について」の関連4箇所、「西宮の農について」の関連1箇所を見せていただいた。

いつものことながら、不勉強のままでの視察となったが、視察先の詳細な事業実施の内容等は、事前視察資料等や当日の質問事項回答書、説明資料に譲るとして、以下、私なりの「勝手気ままな」感想・意見等を視察順序に従い、調査事項、調査箇所ごとにまとめて、若干ではあるが本市への提言・要望等も含めて記述する。(一般用語を除いて、文中「」内の文言は、視察先から頂いたリーフレット等の資料からの引用である。)

1. 図書館について

図書館事業の先進地として評価の高い大和、武蔵野、安城の3市を視察したが、いずれも、①明確なコンセプトに基づいて設計されていること ②複合多機能施設で、図書館機能にプラスして、子ども・子育て支援、生涯学習支援、市民活動・交流支援、青少年活動支援、健康支援などの機能を重点的に付加している ③人口規模が15万から25万人のコンパクトな中規模の都市で、いわゆる「一点豪華主義」で施設整備が可能である ④カフェ等、軽食や憩いのスペース併設が標準仕様となっている ⑤外見上、カーテンウォールとしてガラスを多用している設計が見られ、資料保護の観点から紫外線制御対策や清掃等のメンテナンス費用もそれ相応に高額になっていると拝察する ⑥図書館部門に限定すれば、(ア)子ども向け(児童図書)に重点が置かれる傾向がある (イ)ICT化が進み、予約、検索、貸出、返却等の自動化進んでいる (ウ)学習室の充実スペースをさき (エ)レファレンスサービスも忘れずに (オ)郷土(地域)関連図書や資料に注視しているなどの共通点があげられるのではないかと思う。

(1) 大和市文化創造拠点シリウス

相模鉄道本線大和駅(小田急江ノ島線・大和駅)からシリウスまでの約250メートルほどのプロムナードには、「図書館城下町」と記された旗が街路灯に何本も掲げられていた。シリウスへの思い入れを知らしめる光景であった。

この複合施設は、平成30年度健康福祉常任委員会で「フレイル予防(管理栄養士訪問活動)について」で視察したことがあり、その節、番外ながら、その機能に感銘を受けたので、今回の視察候補に推薦させていただいた次第である。少し長くはなるが、まず、シリウスの紹介も兼ねて、そのときの報告書を再度掲載させていただくことにする。

また、視察コースにはなかったが、予定を変更して、「健康度見える化コーナー」が設置されているという文化創造拠点シリウスを視察した。同館は、図書館、芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内こども広場を中心とした文化複合施設で、外観も立派だが、1階には、メインとサブの2ホール、ギャラリーと入り口から入ったかなり広いオープンスペースに一般開架式の新刊や雑誌コーナー、それにカフェ(スターバックス)があり、空調が大変ではと心配するほどゆったりとした「贅を尽くした」といっても過言ではない空間が確保されていた。目指す「健康度見える化コーナー」は4階の図書館フロアにあるのだが、体組成、ヘモグロビン量、骨健康度、血圧、血管年齢、脳年齢など、自由に使える測定器や認知機能トレーニング器機のコグニバイク2台が設置されていた。誰でもが、器機の使用法はむろんのこと、測定結果の解説や食事、運動などさまざまな健康に関するアドバイスが受けられるよう専門の職員がさりげなく控えており、気軽に健康チェックできる、これまた非常に行き届いた配慮がなされていた。他にも、隣接のロボットコーナーには昨年視察した、コミュニケーションロボット『パルロ』、アザラシぬいぐるみのメンタルコミットロボット『パロ』や自動排泄処理装置『ダイアレット』、介護支援用ロボットスーツHALなどが展示されていた。また、「健康都市図書館」というだけあって、「健康コーナー」には健康に関する図書がずらりと並び、健康づくりや最新の医療情報などが取得できるようになっていた。

見える化コーナーでの健康チェックも体験してみたかったが、それよりもこの施設の用途や機能、設備に興味をそそられ、走り回ってパッと見た次第だが、メインの図書館部分では、自動貸出機、蔵書検索機、自動返却機(返却窓口に返却本を入れるとベルトコンベヤーで自動的に本が返却、回収できるようになっている)などが備えてあり、蔵書はすべてICタグによる管理のようで、閲覧席もソファーに近い形があったり、屋外での閲覧も可能となっていた。DVDやCDの視聴ブースはむろんのこと、中高生向けのティーンズコーナーもあったが、記録写真を頼りに、HPで確認すると、3階にはこども図書館、2階には社会問題関連図書、5階はレファレンス機能を備えた地域資料も含めた参考文献のフロアとなっている。まさに「健康都市 やまと」を支えるにふさわしい複合施設であった。

予定外の視察箇所のことゆえに、あれやこれやということは差し控えねばならないが、勝手気ままをお許しいただけるなら、シリウスは今回の視察で一番感銘を受け、多くのことを学べた施設である。

まず、「人」「まち」「社会」の3つの健康向上を目指す「健康創造都市」のコンセプトが見事に最大限具現化された施設であることがあげられる。「健康度見える化コーナー」を例に挙げるまでもなく、シリウスに入れば、誰だって大和市が「健康創造都市」を目指していることが理解できる。理屈ではなく、めっちゃわかりやすいのである。

思うに、この施設は、縦割り行政の弊害などものともせず、全庁上げて智恵を結集し、資金も存分につぎ込んで、大げさに言えば市の命運をかけて文字どおり総力で取り組んだ事業ではないかと拝察する。それ故に、その結果として、設備面、機能面はもとより、人々を惹きつける「魅力」と「工夫」がちりばめられた施設が完成し、この10月18日に平成28年(2016年)11月オープンからの累計来場者が600万人を超えたのである。人口23万人の都市でのこの驚異的な数値は、華々しい成果でもあるが、多くの市民が「健康創造都市」への思いを具体的に理解し、共有している、その証左とも言えるものである。

行政にとってまちづくりのテーマは、掃いて捨てるほどあるが、対象である「人」に焦点をあて、「健康」をテーマにすることは、一番理にかなっていることかもしれない。なぜなら、「健康」は、まちを構成する「人」が生きていくの上で、最も身近でわかりやすく、しかも、誰にでも共通の、言い換えれば普遍性のある課題であるからである。名所旧跡や特産品を始め、まちを特徴付けるいわゆる特性が何もなくとも、「健康」だけは、どこでもテーマになり得るのである。それ故に、安易との批判を受けるかもしれないが、命に限りがある「人」にとって、やはり「健康」は避けては通れない基本のきのテーマである。そして、大和市のように「健康」を単に「人」の領域だけに留めず、「まち」「社会」の領域まで

広げて、まちづくりのテーマとして取り上げることは極めて賢明な考えで、これが本来の「王道」とも言える行政のあるべき姿勢かもしれない。

少し横道に逸れた勢いで、余分なことを追記すれば、管理栄養士訪問活動の座学も有用で大切だったが、フレイル予防の取り組みだけでなく、大和市ではこのシリウスをまず視察し、「健康創造都市」のあり方全体を学んだ方が良かったのではないと思われる。

この施設は、指定管理者制度で管理運営されており、指定管理者は共同事業体「やまとみらい」で、(株)図書館流通センター（図書部門・健康、代表的事業所）、サントリーパブリシティサービス(株)（ホール）、(株)小学館集英社プロダクション（生涯学習センター）、(株)明日香（子どもの国）、(株)ボーネルンド（子どもの広場の遊具提供）、横浜ビルシステム(株)（清掃）の民間企業6社で構成されている。（）内は主な担当部門。

「やまとみらい」は、法人格は取得していないが、「学ぶ」「出会う」「発見する」を基本理念として、シリウスの他、つきみ野学習センター、中央林間図書館、市民交流拠点ポラリス、桜丘学習センター、渋谷学習センター、渋谷学習センターなど、大和市内の七つの文化施設を管理運営している。

今回の視察では、この指定管理者の代表の方から、施設の詳細な解説を聞き、ご案内をしていただいた。内容はそれなりに良く理解できたが、ここは、やはり、指定管理者ではなく、市役所の担当課、図書・学び交流課職員の話を書きたかった。甚だ残念であり、事前に、きちんとお願いすべきであったと反省するところである。

(2) 武蔵野プレイス

武蔵野プレイスは、「ひと・まち・情報 創造館」で、図書館、生涯学習支援、市民活動支援、青少年活動支援の四つの機能を備えた複合機能施設である。

印象に残ったのは、角アールを多用した仕切り壁面とやさしさを感じさせる照明（明るさ）、「回遊性」を謳う各コーナーの配置や繋がり、階段の形状など、もはや、好みの問題かとも思われるものだが、資料によれば、それぞれが、設計段階で微妙に検討修正されており、感服した。計画段階が長く、食糧倉庫跡地利用計画の紆余曲折も影響したのかもしれないが、この柔軟性こそ、しばしば「行政」に最も欠落している点と指摘されているところであり、評価したいところである。

3階の市民活動情報コーナーには、市民団体の情報や紹介ファイルが常備され、専用ローカーも設置されていた。非常にきめ細やかな市民活動支援であるが、多分人口15万規模のコンパクトな都市故に可能となっているであろう。

市立図書館は、この武蔵野プレイスと吉祥寺図書館が、市の財政援助出資団体の公益財団法人武蔵野文化生涯学習事業団による指定管理者制度での管理・運営で、中央図書館が市の直営となっている。

(3) 国際子ども図書館

下品な表現で恐縮だが、子どもに関する図書館の総本山としては、当然のことながら、佇まいも内容も、申し分のないところである。基本的に本の除籍処分は行わないとのことで、さすがである。ただ、勝手な思いを述べれば、平成のアーチ棟建設にあたっては、安易な鉄筋コンクリート造りではなく、100年計画で「帝国図書館」全体の復元を目指してほしかったと思う。

(4) 中心市街地拠点施設アンフォーレ（安城市図書情報館）

アンフォーレは、「学び・健やか・交わりの場として、地域文化の創出と交流を産み出すとともに、中心市街地の活性化」を目指した官民複合の拠点施設である。図書情報館やホールが入っている本館及び広場・公園は市直営の公共施設、駐車場及び南館の商業施設は民間経営となっている。

中心市街地の活性化を目指すだけに、市民の暮らしをサポートする機能付加に力を入れている。子どもと保護者の交流の場（つどいのへや）、ビジネス支援センタ

一、証明・旅券窓口、健康支援室などがあり、また、市民が自由に投稿できる「ポスフォーレ」と命名されたお知らせコーナー（掲示板）があり、大型タッチパネル「フレしる」で表示されるサービスも展開されている。

蛇足ながら、図書情報館では、今借りている本が記録できるように貯金通帳に擬した「読書通帳」を発行している。こうしたアナログ的なグッズも面白いアイデアである。また、レファレンスサービスの案内冊子の末尾に、次のような文言がさりげなく書かれてあった。「以下のようなお問い合わせは受け付けておりません

● 調査、研究、資料作成の代行 ● 懸賞クイズの解答や学習課題、レポートの解答の提示 ● 翻訳・身上相談・美術品や古書の鑑定 ● 個人のプライバシーに関わるもの ● 医療、法律相談等特定の資格が必要な質問 ● 図書館員の価値判断を求める質問など」どこにでも困った人たち（モンスターやクレイマー）がいるらしい。

当局への提言・要望等

本市では、10月に令和6年度から10年度までの5年間、財政構造改善に取り組みとの基本方針が示された。人件費抑制（削減）が目玉となるものと思われるが、施設総量の縮減も必須項目であり、投資的な新規事業の見直し、具体的には市役所周辺施設整備事業計画の見直しも避けては通れないであろう。だとすると、今この時期に新図書館のあり方について、あれやこれやと声を上げることは果たして適切かどうか、考えなければならない。児童会ではないので、「……があったらいいのになあ」「……になればうれしいなあ」式の夢を語ることは、あまりにも無責任なことではないだろうか。私たちのやるべきは、たとえ些細なことでも、市民サービスの向上を目指して、今できることが何かを探り、それら一つずつ実現することである。卑近な例をあげれば、閉館時刻の課題である。視察先では、本市と同じ平日18時閉館は皆無であった。大和シリウス21時、武蔵野、安城が20時であった。なぜ、時間延長ができないのか。できない理由はなにか。解決策はないのか、教えてほしい。

今回の視察では、本市図書館担当職員にご同行願い、武蔵野プレイス、国際子ども図書館、安城アンフォーレを見ていただいた。各市の細々とした創意工夫や管理運営のあり方など、視察の成果は今後の参考資料として活用していただくとして、財政構造改善方針が出された今この時期は、今一度、第5次総合計画の見直しも視野に入れた施策、事務事業の再構築、すなわち、担当分野に絞って言及すれば、新図書館計画の抜本的な再検討を行い、その方針を早急に示していただきたいと切望する次第である。

2. 農について

(1) 亀岡市 オーガニックビレッジ宣言にかかる取組

亀岡市の農業の現状は、2020年農林業センサスによれば、農業経営体1,487うち法人が30、有機農業に取り組んでいる経営体は105（7%）、作付面積7.6ha（5%）である。有機農業を希望する就農希望者の増加（新規就農85人中24人が有機農業実践）を受けて、これまでの環境先進都市・プラごみ政策に加え、天然記念物アユモドキの保全や生産者の育成を目指して、駅北側の京都・亀岡保津川公園（約14ha）を拠点にオーガニックビレッジパークを開園予定である。

「個人経営体の78%が副業的農家であり、農業従事者不足は深刻な領域に入りつつ」あるとのことで、京野菜の一大生産地も楽観は許されないとの危機感のもと、「有機農業への取り組みはまだ始まったばかり」で、今後の展開が注目されるどころである。

当局への提言・要望等

残念ながら、本市の農業と比較すると、実態があまりにもかけ離れすぎて、何を学ぶかと言うよりは、ただただ聴かせてもらうというだけで精一杯であった。亀岡市は、まだまだ、農業が産業（実態）として存在しており、農家同士の繋がりも

とより、担当の市農林振興課職員と農家の繋がり（信頼関係）も生きているようで、羨ましくもあり、有機農業推進政策も実現するのではないかと感じた。

本市の農の現状を思えば、現状の振興策、市民農園、農業祭や直売場のPR等が続けるとともに、やはり、地道ながらも、子どもたちを対象に、学校給食や学校農園などを活用して、まずは身近なところから始めて、農への理解を深めるしかないとの思いを再確認した次第である。具体的には、小中学校においては、学校給食における農産物食材の「地産地消」だけに留まらず、これに伴う、学年ごとの学習段階に見合った、地域学習やその他の学習（例えば、栄養に関連した学習）を同時に行うのが望ましく、むしろこれらは、学校任せでなく、教育委員会が主体となって、モデル的なカリキュラムを作成して、指導すべきである。事細かいことを言えば、学校農園や野菜類の鉢植え栽培などに関しては、近隣農家の教を請う橋渡しなど、農政課の積極的な関わりが求められることも多々あるのではないだろうか。

委員会行政視察報告書

委員氏名 佐野ひろみ

調査の期間	令和5年(2023年)10月25日(水)
調査先 及び 調査事項	亀岡市 ・オーガニックビレッジ宣言にかかる取組について

(当局への提言)

京都府亀岡市の人口約 8.6 万人。亀岡盆地を中心に位置し、大堰川と保津川が流れ緑豊かな環境でありながら、京都市へは電車でも車でも約 20 分と通勤圏内でもある。亀岡市は世界に誇れる環境先進都市を目指しており、オーガニックビレッジ宣言や、有機農業への取り組みを行っている。もともと集落の組織がしっかりしていたこともあり、行政が新規就農者と集落の役員等の間に入って、物件や田畑の紹介をし、農業への新規参入のハードルを下げている。また、給食に有機米及び有機農産物を導入したり、新規就農希望者が農業を学ぶことができる「担い手養成実践農場整備支援事業」を導入し、農家を育てている。西宮市は 48 万人が住む阪神間のベッドタウンであるが、市民の環境への関心は高い。環境学習都市宣言をしている西宮市として、これ以上、環境を汚さず農薬や化学肥料に頼らない農業を行うため有機農業をする方には補助金「食品認証取得支援」の補助率を現在の 30%から上げることを進めて頂きたい。また、井戸水の定期的な PFAS 検査を行い、安心安全な農業を担保すべきと考える。